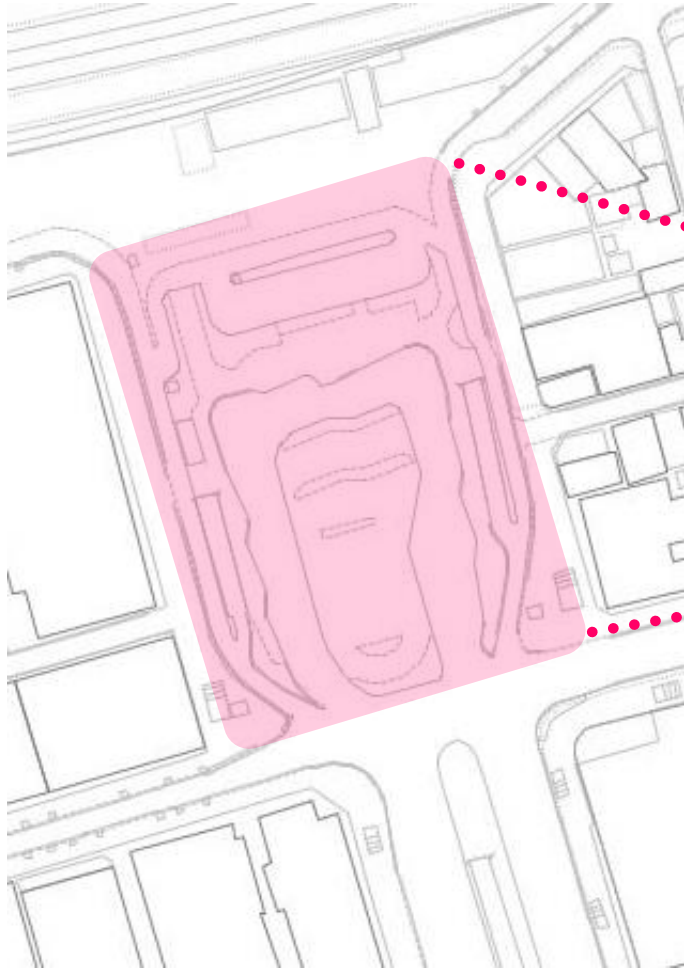


福山駅前広場協議会



広場自体について議論

福山駅前デザイン会議



ふくまちエリア全体における広場について議論

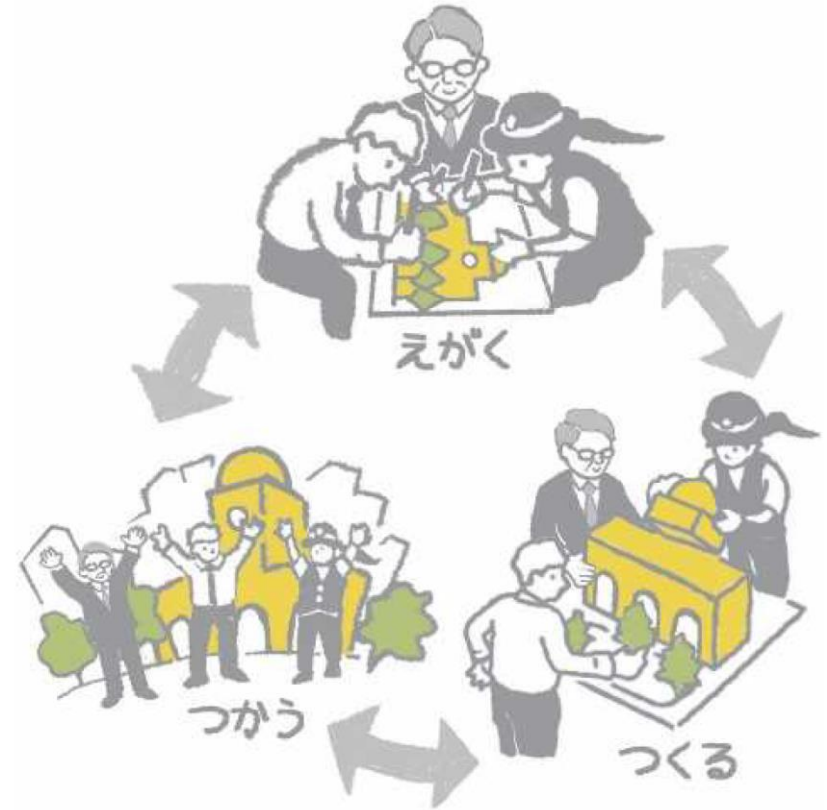
## ●一体的で柔軟な運営

- 駅まち空間内の都市アセットは、基本的に連続する動線で繋がっている。そのため、ユーザーの目線に立ち、それぞれの管理区分を超えて、**一体的な管理・運営を行うことが望ましい。**
- 例えば、都市再生推進法人などのエリアマネジメント組織等により、関係者間の連絡調整をはじめ、広告事業やイベント開催等の横断的な取組を実施すること等が考えられる。
- 一方、多様な活動の促進により駅まち空間の価値を高めていくために、季節や時間帯に応じて都市アセットの使い方を柔軟に変えていくことも考えられる。
- そのためには、**計画・事業化段階だけでなく、管理・運営段階においても、関係者間で連携して、可変的・多目的な活用を行うことが望ましい。**



## ●多様な主体の連携

- 駅まち空間には、多様な関係者が存在するため、行政、交通事業者・開発事業者・地域関係者・有識者などが、**連携して、計画づくりや運営を行っていく体制づくりが重要である。**
- 地域によって駅まち空間の関係主体の関わり方や関わるタイミングは異なるが、駅まち空間で主要な施設の管理運営を担っている地方公共団体、鉄道事業者、開発事業者が中心的な役割を担うことが期待される。
- その他にも、NPO や個人事業者に至るまで、多様な主体が存在する。さらには、駅まち空間の再構築に関する検討が深化する過程で、これまで特段の関心を示していなかった主体が、新たに関心を示すようになることもある。
- そのため、どのような主体が、どのようなタイミングで関心を示す場合でも、他の主体はこれをしっかりと受け止め、互いに連携していけるような、柔軟な姿勢で取り組むことが**重要**である。
- 地域の繋がりを活かして**市民と双方向のコミュニケーション**を行い、課題やニーズをきめ細かく把握するプロセスを丁寧に進めていくことが**必要**である。



## （１）交流広場運営事業の目的

- ・ 備後圏域（瀬戸内地域）の玄関口としての価値向上
- ・ 広場周辺のエリア価値向上
- ・ 市民の愛着・誇りの醸成

## （２）交流広場の役割

- ・ 広場で出会う人や情報を通して、ふくまちエリアや備後圏域（ひいては瀬戸内地域）の価値・魅力を発信すること
- ・ 居心地の良い空間づくりやその活用によって広場への来訪・滞在者を増やすこと  
（広場周辺の飲食，物販，サービス等店舗に対する需要や公共交通需要を高める）
- ・ 福山城遺構の歴史的な価値を伝える象徴となること

## （３）整備・運営・管理の方法

- ・ 上記の目的を達成するためには、広場周辺の店舗などと連携した広場空間の活用や地域の価値・魅力を効果的に発信するなど、ふくまちエリアや備後圏域の再生・発展を見据えたまちづくりに関する新たな発想やノウハウが必要。そのため、こうした発想やノウハウに長けた民間事業者と連携しながら、交流広場の運営管理を行っていく。
- ・ 運営管理（交流広場の使い方）を見据えた設計・施工ができるよう手法を検討する。
- ・ サウンディングでの意見も踏まえて検討する。

## （４）求める事業者像

- ・ エリア再生の視点を持つ。（敷地主義ではない）
- ・ 企画力や多様な人のネットワークを持つ。
- ・ エリアの価値を高めることへの動機（なぜこの事業をしたいのか）がある。
- ・ 遺構の歴史的な価値や市民の思いを理解し、それらを尊重した広場活用ができる。

## （５）スケジュール

- ・ 2024年度 サウンディング，募集要項検討，公募・選定，駅前広場整備基本計画の策定
- ・ 2025年度以降 駅前広場整備の設計

## (1) 交流広場の役割

- ・ ふくまちエリア全体の中でどのような役割を担うべきか。
- ・ 周辺の公園との違いは何か。
- ・ 人や情報が行きかう中での広場のあり方 など

## (2) 整備・運営・管理の方法

- ・ 多くの関係者が関わる中での管理運営組織のあり方
- ・ 運営管理による収益を再投資していくための仕組み
- ・ 周辺と広場の境界を感じさせない環境づくり など

## (3) 求める事業者像

- ・ 駅周辺や周辺地域を巻き込んでいくような事業者とは。
- ・ 人や情報、メディアとのネットワークを持つ など